不登校児童生徒を対象とする学習支援事業

こちゃっこい寺子屋

2025年度 草の根育成助成　成果報告

2026年 5月1日　　こちゃっこい
公益財団法人 草の根事業育成財団　御中

学校外で学ぶ子どもに、
必要な学習支援とは？

学校での学び方に
苦手を感じる子どもに、
適したアプローチとは？

学校で失った自信を
回復しながら、
進路につなげる支援とは？

不登校の子どもへの学習支援は、

「学校の勉強に追いつかせること」

だと思われがちです。

しかし本当に必要なのは、

まず学びへの抵抗感をほぐし、

自分に合ったやり方で
小さな成功体験を積み重ねること。

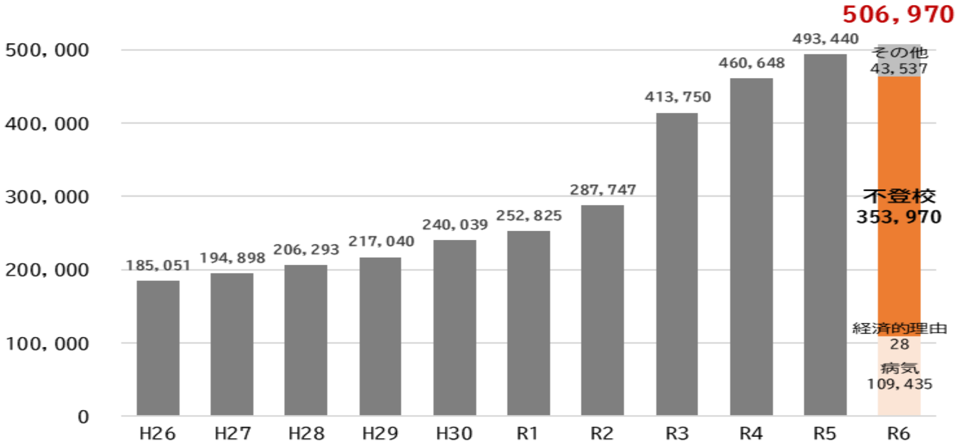
それが、進路へとつながる道だと、
こちゃっこいは考えます。

©2026 kochakkoi

01 社会課題の現状

50万人以上

の小中学生が長期欠席。12年連続で増加
うち「不登校」はおよそ 35万人
「不登校」は社会全体で向き合うべき喫緊の課題



（出典）文部科学省「令和6年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

📍 三鷹市の状況

2023年度　長期欠席・不登校児童生徒

603人　（前年度 492人）

前年度比 ＋22.5%

約13万人が「未支援」のまま

不登校児のおよそ4割が学校内外の専門機関とつながっていない

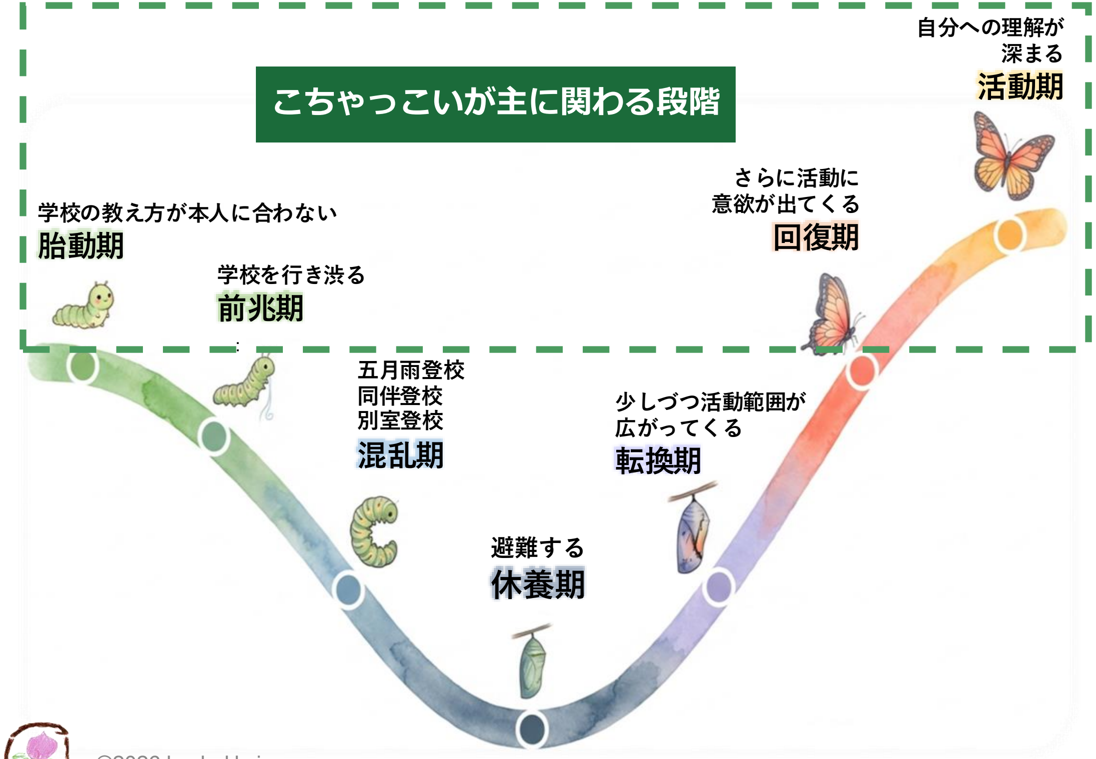
公的支援の利用率：9%程度　／　民間支援の利用率：5%程度

©2026 kochakkoi

02

不登校の子どもがたどる道すじと支援不足

「学校への通いづらさ　ロードマップ」（こちゃっこい作成・抜粋）



75%超 の保護者が「支援を利用できていない」と回答

（出典）文部科学省 令和2年度調査

① 経済的負担が重い

民間支援の月額平均3.3万円＋実費
継続が困難なケースも多い

② 事前申込のハードル

体調・気持ちに波があり
事前連絡での申込みが難しい

③ 段階に応じた支援の不足

段階によって必要な支援は異なる
例）混乱期～転換期は親の会・訪問支援などが必要

④ 多様な特性に対応した場の不足

感覚過敏・学習障害・ASD・ADHD
特性に合った居場所が少ない

©2026 kochakkoi

05 こちゃっこいの概要

2つの拠点を中心に、参加者が主体的に対話的に学ぶ少人数異年齢の場

広大な自然の中で
野川公園

豊かな緑、土のにおい、生き物たちの声。 五感をフルに使い、自然の中から学びを見つけ出す冒険のフィールドです。

ものつくりを楽しむ
こちゃきち

「つくりたい」 という好奇心を実現するDIY拠点。試行錯誤しながら、想像力・創造力を形にしていくための基地です。

対象

主に小中学生 （男女比 7:3）

在籍人数

41名 (2026年3月現在)

在籍スタッフ

12名

※ 子ども対応 3名、保護者対応 2名、調理 5名、高校生ボランティア 2名

活動日時

月・火・木・金

10:00 ～14:00
（8:00～17:00 延長可）

※ 2回目以降は
事前連絡なしで参加OK

1回あたりの規模

子ども : 最大15名
スタッフ: 2名

主な事業

自由な学校事業

不登校児童生徒の居場所
（2024年度138回）のべ1,504人

冒険遊び場事業

長期休暇・祝日のアウトドア活動
（2024年度18回）のべ196名

全体事業費（2024年度） 252万円

©2026 kochakkoi

07 こちゃっこい寺子屋の特徴と実績

不登校の子どもにとって、学習そのものへの抵抗感が最初の壁です。
最初のハードルを下げ、徐々に自信をつけ、やがては自走できるように伴走します。

1

① 学年・進度・教科にとらわれない

子ども一人ひとりの「好き」や興味・関心を起点に、プロジェクトを個別に設定。
決まったカリキュラムはなく、子どものペースで進む。

2

② 既存の学習方法にとらわれない

五感に働きかける学び方を取り入れる。
読み上げ機能・触って学べる教材・PC活用など、多様な感覚へのアプローチでその子に合った学び方を一緒に探す。

3

③ ゴールを最重要視しない

発表や報告はあくまでも成果であり、途中でやめても学びはあることを繰り返し伝え、プレッシャーを下げる。
「わからない」「めんどくさい」と言える関係をつくる。

実施概要

【期間】2025年4月～2026年3月　【実施回数】177回　【対象】小学校高学年～中学生

【参加人数】4名（のべ177名）　【会場】こちゃきち（三鷹市大沢6-3-15）

【当該事業予算】552,800円　【助成実績】111,000円（パソコン購入費として）テント支給（マルシェ出店時に活用）

07 物品助成　テント（1.8m×1.8m）の活用について

背　景

こちゃっこいでは、子どもたちが「学校外の社会」とつながる機会として、地域のお祭り・マルシェ・フェスタへの出展活動を行っています。

屋外イベントでの出展には、雨天時でも活動を継続するためのテントが不可欠です。
しかし持ち運び可能な規格（1.8m×1.8m）のテントがなく、出展のたびにテント調達が課題となっていました。

本助成によりテントを整備することで、継続的・安定的な地域活動が可能になりました。

実　績

日　時	2025年10月25日（土）10:00～16:00
イベント	オーガニックフェスタ in 井の頭公園 2025
会　場	井の頭公園 西園 文化交流広場（三鷹市）
主　催	みたか子どもの食と未来を守る会
後　援	三鷹市

三鷹・吉祥寺のオーガニックなお店が大集合するフェスタに出展し、保護者・地域住民への周知活動を実施しました。

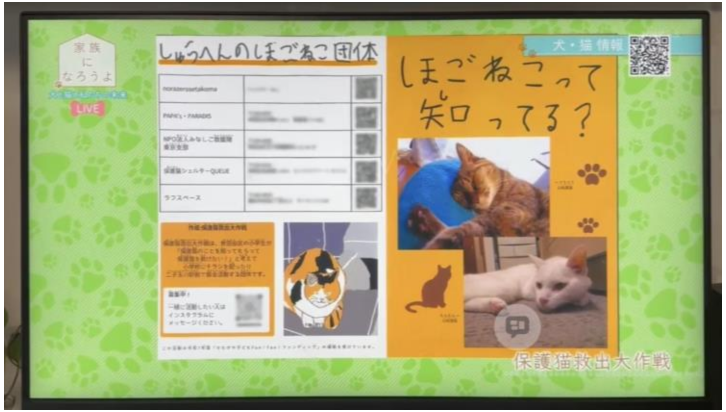
活動の様子

ブース全景（雨天でも活動を継続できました）

オーガニックフェスタ 2025　チラシ

©2026 kochakkoi

物語①　保護猫救出大作戦



小6（通所3年目）吃音あり

「保護猫の実情を広く知ってほしい」
——猫好きの小６児童が挑戦した募金活動

7～10月：周辺の保護猫団体の情報を調べ、チラシをPCで作成。

11月：小学校へのチラシ配布許可取りに自ら交渉。

1月7日：二子玉川駅周辺で街頭チラシ配布＆募金活動を実施。

募金金額	チラシ配布	募金人数
56,828円	約300枚	約100人

最初は緊張したが、友達が手伝ってくれたおかげで楽しく活動できた。
保護猫を飼っている方が多く声をかけてくれたことが嬉しかった。
活動の様子はテレビでも放送された。今後もボランティアとして継続予定。

©2026 kochakkoi

物語②　落語の披露

小6（通所6年目）・読字障害あり

「耳でおぼえる」
――自分の特性に合った学び方を探して自信をつける

１学期：落語講談好きから端を発して、寄席の鑑賞・落語絵本の音読などに挑戦

２学期：PCの録音機能・音声入力・AIによる原稿作成支援を活用し、
読み書きに依存しない学習方法を模索。

12月：4分の落語を人前で披露。

3月：9分の落語を人前で披露。

子どもに起きた変化

聴覚からの記憶定着が強いという特性を活かし、何度も聴いて暗記し、披露できたことで
「自分に得意な学び方がある」という実感を獲得。
繰り返しの試行錯誤を通じて、自己肯定感の向上が見られた。

育まれた力　自分に適した学習方法の発見　／　テクノロジーの活用　／　人前での表現・発表

©2026 kochakkoi

08 子どもたちに起きた変化

① 社会貢献活動へ発展（保護猫）

情報収集・発信・対人調整の力が育まれ、
学びが実社会への働きかけへと発展した。

② 自分だけの学び方の発見（落語）

PCの音声入力・AI活用などにより読み書きに
依存しない学習方法を確立。発表成功体験につながった。

③ 進路意識の形成

「今何をすべきか」という視点が生まれ、
高校進学を具体的な目標として捉えるようになった。

④ 興味を起点とした学習継続

身近な題材と結びつけることで学習が継続し、
語彙力の向上につながった。

総括：年齢や進度に縛られず成功体験を積み重ねることで、学習への抵抗感の軽減と自己肯定感の回復が見られた。
多様な学び方の体験を通じて、自分に合った学習スタイルを見出し、進路選択に向けた意欲の向上につながった。

09 見えてきた課題と、次のステップへ

⚠ 新たに見えた課題

関心や意欲の継続が難しく、年度途中で離脱する児童が一定数いた。「継続的に通うこと」を前提とした月額制のみでは、子どもの状態に対応しきれない場面があった。

✅ 課題への対応

スポット利用を新たに導入。本人の状態やタイミングに応じて柔軟に関われる仕組みを整えた。
継続利用の有無を成果と捉えるのではなく、一度離脱しても再び必要になったときに気軽に戻れる関係性を重視していきたい。

🌱 次年度に向けて

「プロジェクト学習の個別支援」を前面に出し、今年度の実績を具体的に紹介しながらSNS発信を強化する。

「三鷹不登校の子どもと保護者サポートネットワーク」を通じた周知を図り、より多くの子どもへ届ける。

今年度は定期利用者のみで予定人数に達したが、次年度はさらに広く呼びかけていく。

10　まとめ

「ちょこっとやってみよう」から始まる学びの再接続

こちゃっこい寺子屋は、2025年度草の根育成助成により購入したパソコンを活用し、
プロジェクト学習の基盤を整え、「学びへの再接続」に挑戦することができました。

網羅することよりも	ゴールから逆算するよりも	休まず続けることよりも
まずは一点突破を	**まずは着手してみることを**	**休んだり戻ったりすることを**

私たちはこれからも、子どもたちが試行錯誤しながら学ぶ場所であり続けます。

ご支援いただいたみなさまに、心より感謝申し上げます。